

令和3年 9月1日	<b>農作物病害虫発生予報</b> <b>9月</b>	山口県病害虫防除所 山口県農林総合技術センター
--------------	--------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病害虫】	2
	【その他の病害虫】	13
III	参考(予報の見方、気象予報)	14

I 予報の概要

農作物名	病害虫名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
イネ	いもち病(穂いもち)	<b>多</b>	多	多
	紋枯病	平年並	平年並	多
	トビイロウンカ	やや少	やや少	少
	コブノメイガ	やや少	やや少	少
	斑点米カメムシ類	<b>多</b>	多	多
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや少	やや少	少
	吸実性カメムシ類	<b>やや多</b>	やや多	多
カンキツ	かいよう病	平年並	平年並	前年並
	黒点病	少	少	少
	ミカンハダニ	やや少	やや少	前年並
果樹全般	カメムシ類	平年並	平年並	少
野菜全般	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	前年並
	オオタバコガ	平年並	平年並	前年並

お問い合わせ先

TEL (083) 927-4006

FAX (083) 927-0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

# イ ネ

## 1 いもち病（穂いもち）

令和3年度農作物病害虫発生予察技術資料第5号を参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/gijyutusiasiryuu.html>

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
<b>多</b>	<b>多</b>	<b>多</b>	粉剤・液剤：穂ばらみ後期と穂揃期の2回 粒剤・パック剤：出穂前

### (2) 予報の根拠

ア 葉いもちの8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は21.9%（平年12.9%）、発病株率11.1%（平年4.6%）、発病度3.5（平年1.2）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 穂いもちの8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は33.3%（平年14.1%）、発病株率7.6%（平年3.0%）、発病度2.1（平年0.3）で平年に比べ多かった（+）。

ウ 一部ほ場で多発生がみられた（+）。

エ 気象予報では、9月の気温、降水量、日照時間はほぼ平年並み（±）。

### (3) 防除対策

#### <防除のポイント>

穂いもちの防除を適期に実施する。粉剤・液剤は、穂ばらみ後期と穂揃期の2回行い、粒剤・パック剤は出穂前に施用する。8月下旬以降に出穂したほ場で穂いもちが発生している場合は、追加防除を行う。

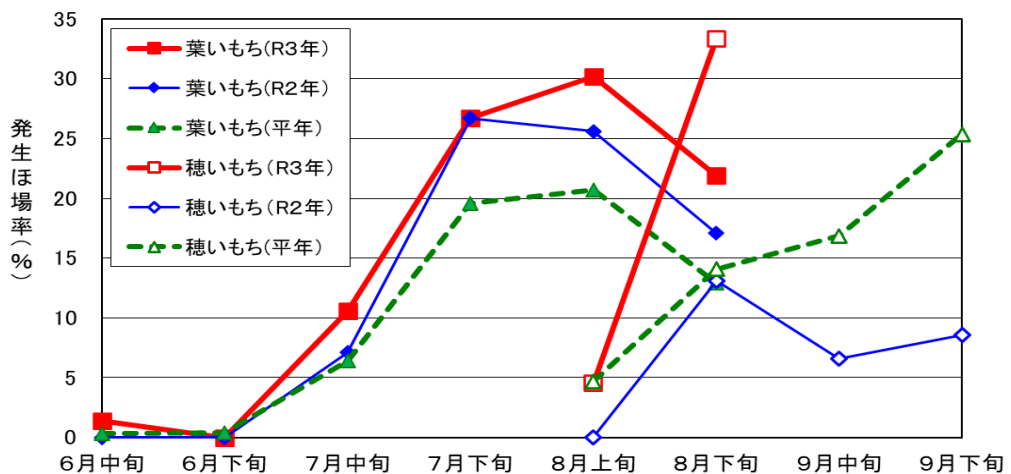


図 イネいもち病の発生推移

## 2 紋枯病

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	—

### (2) 予報の根拠

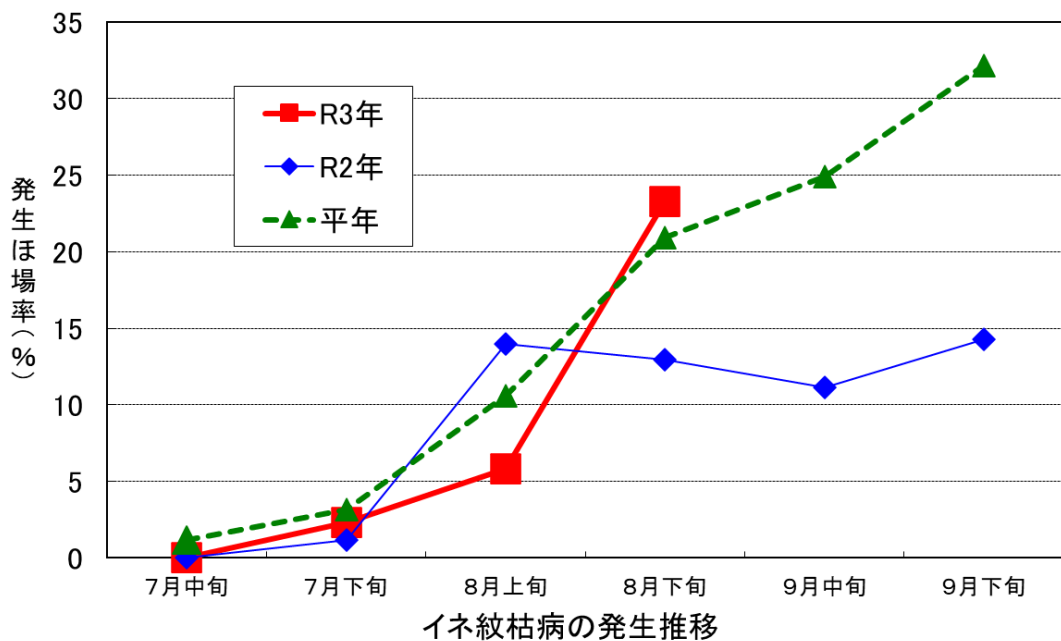
ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率23.3%（平年20.9%）、発病株率2.8%（平年3.2%）、発病度0.8（平年1.1）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

### (3) 防除対策

#### <防除のポイント>

多発した場合は、出穂期後2週間までに防除する。



## 3 トビイロウンカ

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	多発時

### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年32.2%）、10株当たり虫数0頭（平年33.4頭）、10株当たり短翅型成虫数0頭（平年0.6頭）で平年に比べやや少なかった（-）。

イ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

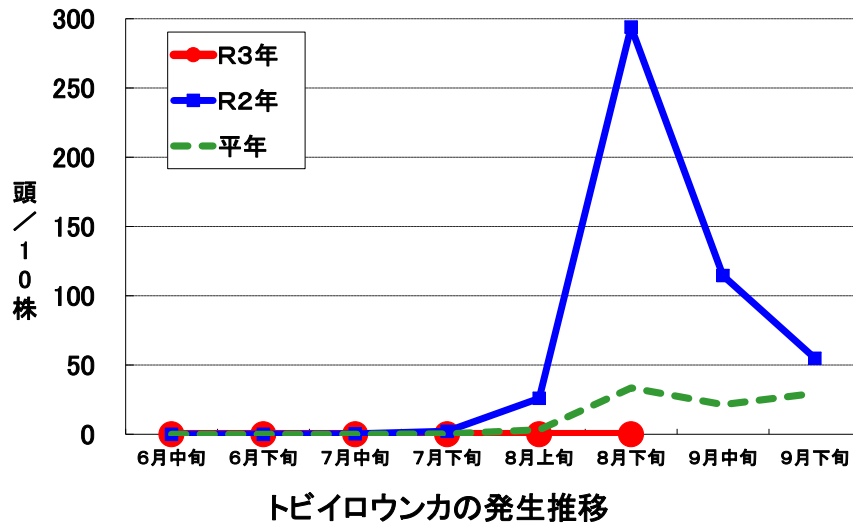
(3) 防除対策

<防除判断>

ほ場をよく観察し、多発生が確認された場合は直ちに防除を実施する。なお、防除実施7日後に再確認し、必要に応じ再度防除を実施する。

<防除のポイント>

- ア ほ場での発生状況を確認し、効果の高い薬剤により防除を的確に行う。
- イ 薬剤は株元によくかかるように丁寧に散布する。



4 コブノメイガ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	粉剤・液剤：(中生種対象) 若令幼虫最盛期

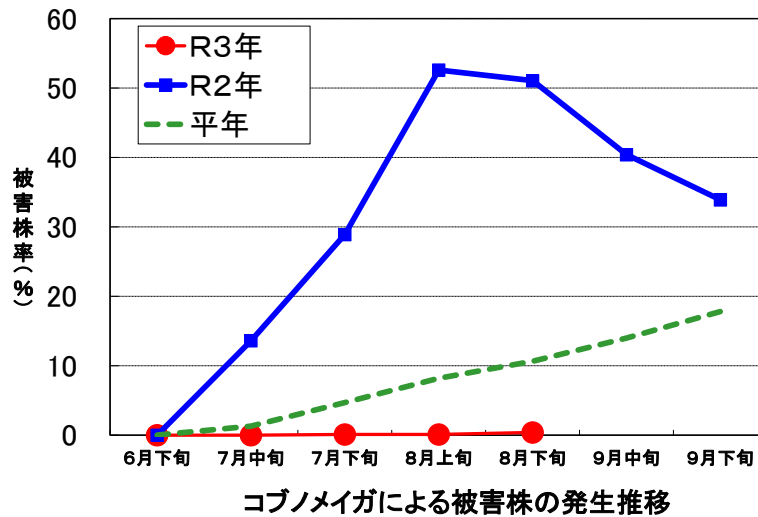
(2) 予報の根拠

- ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率7.0%(平年29.9%)、被害株率0.4%(平年10.6%)、被害葉率0.0%(平年0.9%)、20回払い出し虫数は0.0頭(平年1.1頭)で平年に比べやや少なかった(一)。
- イ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み(±)。

(3) 防除対策

<防除判断>

- ア 出穂後は、水稻への産卵が少なくなるため防除は必要ない。



5 斑点米カメムシ類

令和3年8月3日付け令和3年度農作物病害虫発生予察注意報第1号参照

[https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/tyuuihou\\_keihou.html](https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/tyuuihou_keihou.html)

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	穂揃期 防除後も斑点米カメムシ類が認められる場合は、 10日後に防除

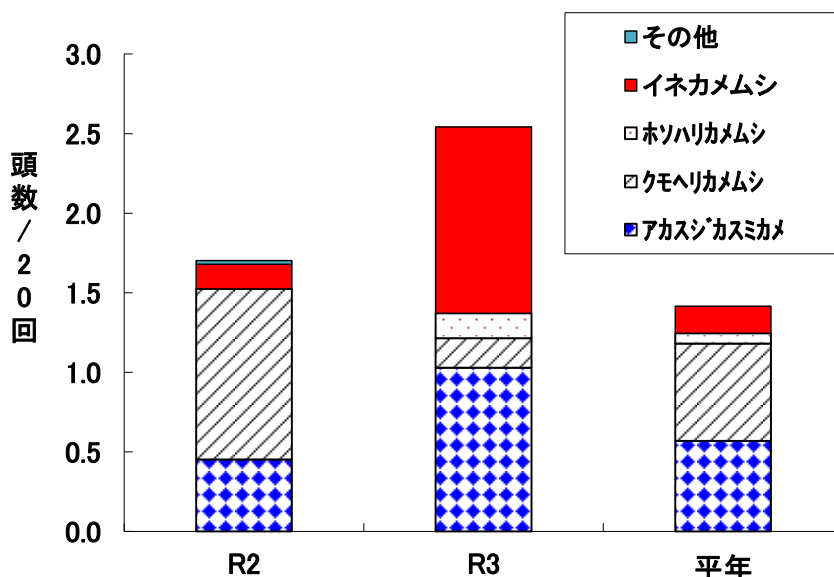
(2) 予報の根拠

- ア 8月下旬の巡回調査(出穂ほ場)では、発生ほ場率80.0%(平年53.5%)、20回すくい取り虫数2.9頭(平年1.5頭)で平年に比べ多かった(+)。
- イ 7月21日～8月25日の予察灯誘殺数(県内4か所)は、898頭(平年1,127頭)で平年並みであった(±)。
- ウ イネカメムシがすくい取り調査で平年に比べ多く、予察灯調査で平年に比べやや多かった(+)
- エ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み(±)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

- ア すでに防除を実施したほ場においても、カメムシ類の発生が多い場合は追加防除を行う。
- イ 防除時期に畦畔に出穂したイネ科雑草がある場合は、農薬の飛散に注意のうえ、畦畔も含めて防除を実施する。
- ウ 防除に当たっては、使用時期等の農薬使用基準を遵守する。



出穂ほ場における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数(8月下旬)

ダイズ

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	発生初期 (若齢幼虫期)

(2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率19.0%(平年38.5%)、1a当たり葉の白変か所数0.1か所(平年0.8か所)、1㎡当たり虫数は0.4頭(平年1.0頭)で平年に比べやや少なかった(ー)。

イ フェロモントラップにおける誘殺数(5か所、7月21日～8月20日合計)は、3,073頭(平年4,456頭)で平年並みであった(±)。

ウ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み(±)。

(3) 防除対策

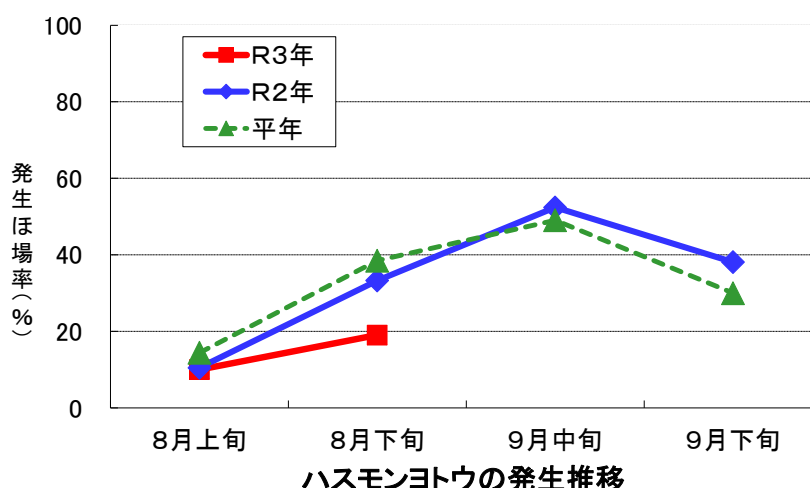
<防除判断>

防除の目安は、白変か所数が1a当たり5か所以上である。

<防除のポイント>

ア 発生量は地域やほ場によりばらつきがあることから、ほ場をよく観察し、防除適期(若齢幼虫最盛期)に薬剤防除を実施する。

イ 薬剤は同一系統の連用を避ける。



## 2 吸実性カメムシ類

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	子実肥大期（開花期後45～50日頃）

### (2) 予報の根拠

ア 8月下旬の巡回調査では、発生ほ場率52.4%（平年37.1%）、1㎡当たり虫数0.3頭（平年0.2頭）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 7月26日～8月25日の予察灯調査（県内4か所）の誘殺頭数は26頭（平年50頭）で、平年並みであった（±）。

ウ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

### (3) 防除対策

#### <防除のポイント>

ア 防除の際はダイズの莢に薬剤が十分かかるよう散布する。

## カンキツ

### 1 かいよう病

#### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	台風の前

#### (2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.8%（平年10.5%）、発病果率0.6%（平年0.9%）、発病度0.3（平年0.4）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、9月の降水量はほぼ平年並み（±）。

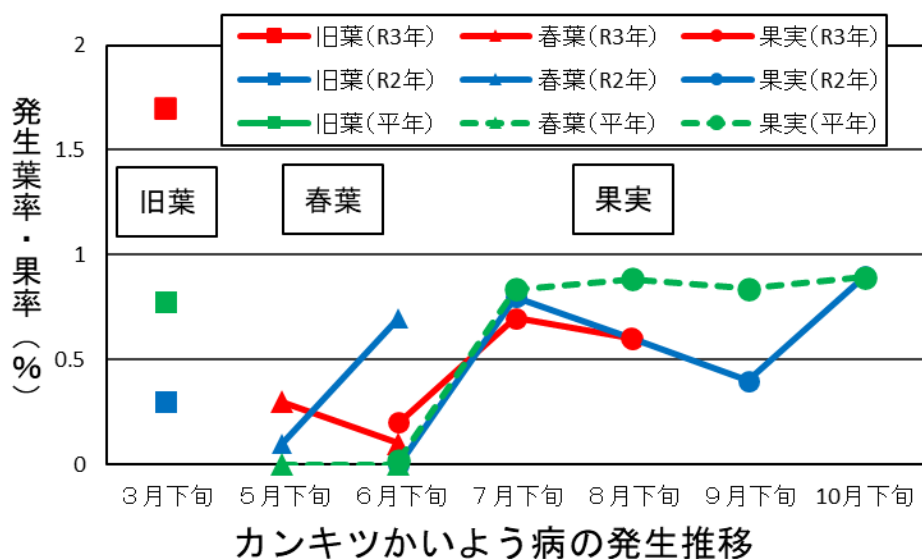
(3) 防除対策

<防除判断>

発生が見られるほ場や、あまなつ、いよかん等発病しやすい品種では、台風の襲来前に防除を実施する。

<防除のポイント>

- ア 病斑のある枝や葉は伝染源となるので除去する。
- イ 防風樹や防風ネットを整備し、強風による感染を防ぐ。
- ウ 夏秋梢はミカンハモグリガの被害が発生しやすく、本病の発生を助長するので、できる限り除去する。幼木や隔年交互結実園の遊休樹など夏秋梢を残す場合にはミカンハモグリガの防除を徹底する。



2 黒点病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
少	少	少	防除後の累積降水量が200~250mmに達したとき、または、薬剤散布後1か月を経過したとき

(2) 予報の根拠

- ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率47.4% (平年82.0%)、発病果率7.6% (平年23.8%)、発病度1.7 (平年6.1) で平年に比べ少なかった (一)。
- イ 気象予報では、9月の降水量はほぼ平年並み (±)。

(3) 防除対策

<防除判断>

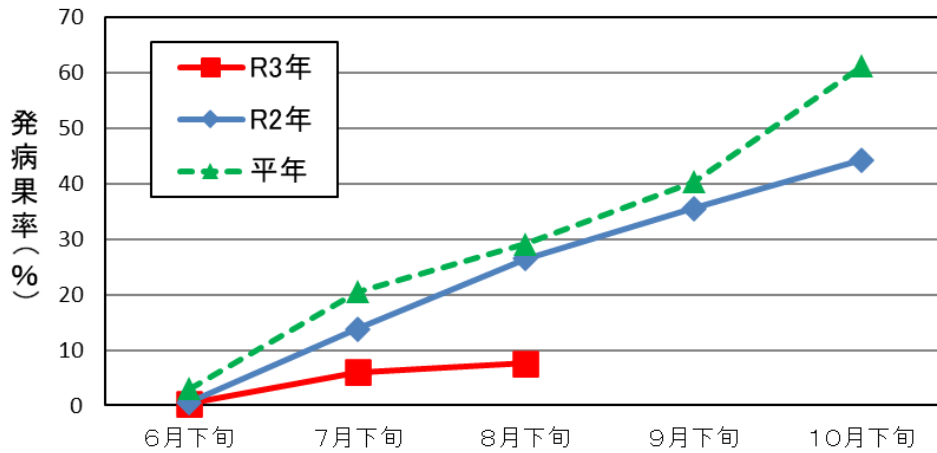
予防散布が基本なので、予報内容の防除時期に合わせて防除を実施する。

- ア 防除後の累積降水量が200~250mmに達したとき。
- イ 降水量が少ない場合は、薬剤散布後1か月を経過したとき。

<防除のポイント>

- ア 樹冠内の枯れ枝や放置された剪定枝は本病の伝染源となるので、園外に持ち出して処分する。
- イ 「せとみ」の黒点病は病斑が大きくなり、外観品質に及ぼす影響が大きいため、防除が遅れないように留意する。





カンキツ黒点病の発生推移

### 3 ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	前年並	雌成虫の寄生葉率30~40%以上、または、雌成虫1葉当たり0.5~1頭以上

#### (2) 予報の根拠

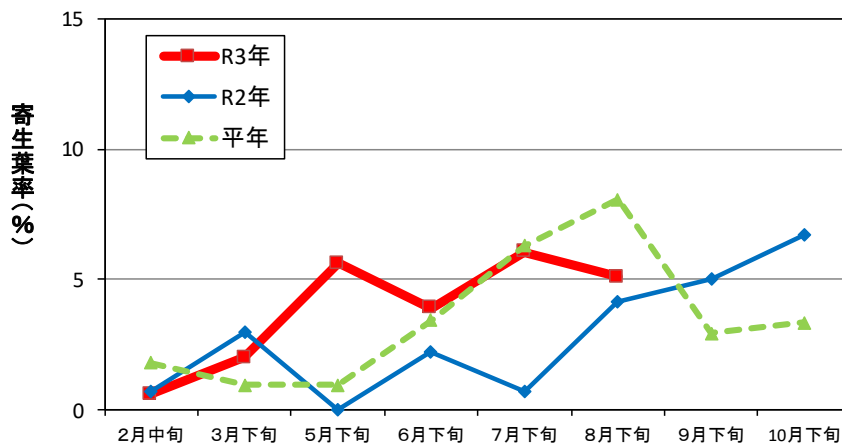
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率21.1% (平年45.0%)、寄生葉率5.1% (平年8.1%) で平年に比べやや少なかった。一部ほ場で多発生がみられる (一)。

イ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み (±)

#### (3) 防除対策

##### <防除のポイント>

薬剤散布後は、防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、系統の異なる薬剤で追加防除を実施する。



ミカンハダニの発生推移

果樹全般（カンキツ、ナシ、リンゴ）

1 カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	園地への飛来を確認した時

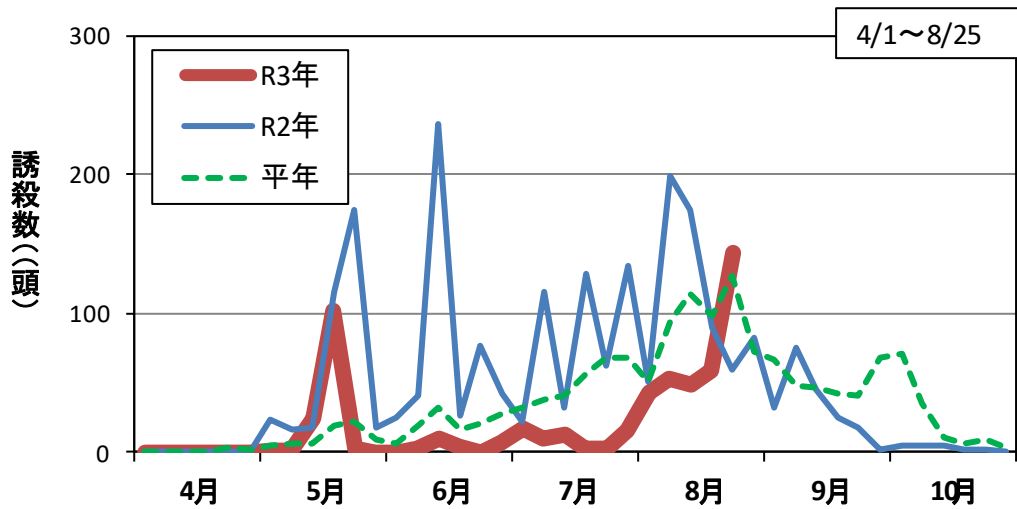
(2) 予報の根拠

- ア 予察灯での誘殺数(5か所、7月26日～8月25日合計)は、362頭(平年550頭)で平年並みであった(±)。
- イ フェロモントラップでのチャバネアオカメムシの誘殺数(4か所、7月26日～8月25日)は、37頭(平年3,310頭)で平年に比べやや少なかった。(－)。
- ウ スギ・ヒノキの毬果量調査(6か所、6月下旬調査)では、スギ、ヒノキとも平年並みの着果程度であった(±)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

特に例年被害を受ける園や山林に隣接した園では飛来に注意する。



果樹カメムシ類の予察灯への誘殺数推移(県内5地点合計)

野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期（若齢幼虫期）

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップでの誘殺数（5か所、7月21日～8月20日）は、3,073頭（平年4,456頭）で平年並みであり、8月の山口市での誘殺数は、1,934頭（平年3,175頭）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み（±）。

(3) 防除対策

<防除判断>

野菜では、苗床や定植直後に加害されると被害が大きいため、こまめに発生状況を確認する。

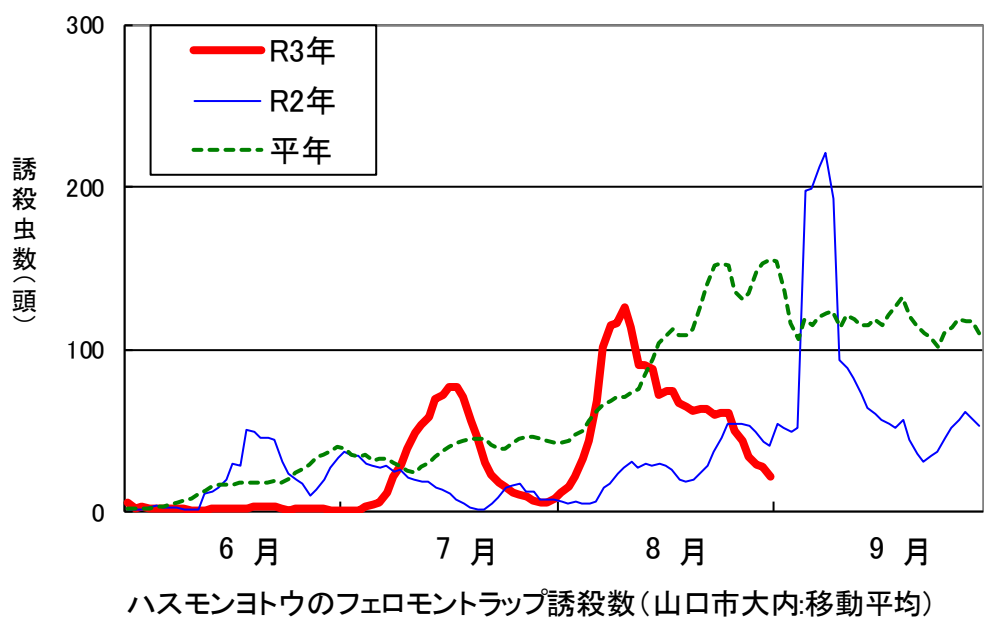
<防除のポイント>

ア 卵塊や若齢幼虫が集団で食害している葉を探し、捕殺する。

イ イチゴ等の施設栽培では、鉄骨パイプや天井ビニール等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけたら直ちに捕殺する。

ウ 若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



## 2 オオタバコガ

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期（若齢幼虫期）

### (2) 予報の根拠

ア 8月の山口市でのフェロモントラップでの誘殺数は、16頭(平年26頭)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、9月の気温、降水量はほぼ平年並み(±)。

### (3) 防除対策

#### <防除判断>

野菜の定植時期により発生時期が異なるため、ほ場の発生状況を確認する。

#### <防除のポイント>

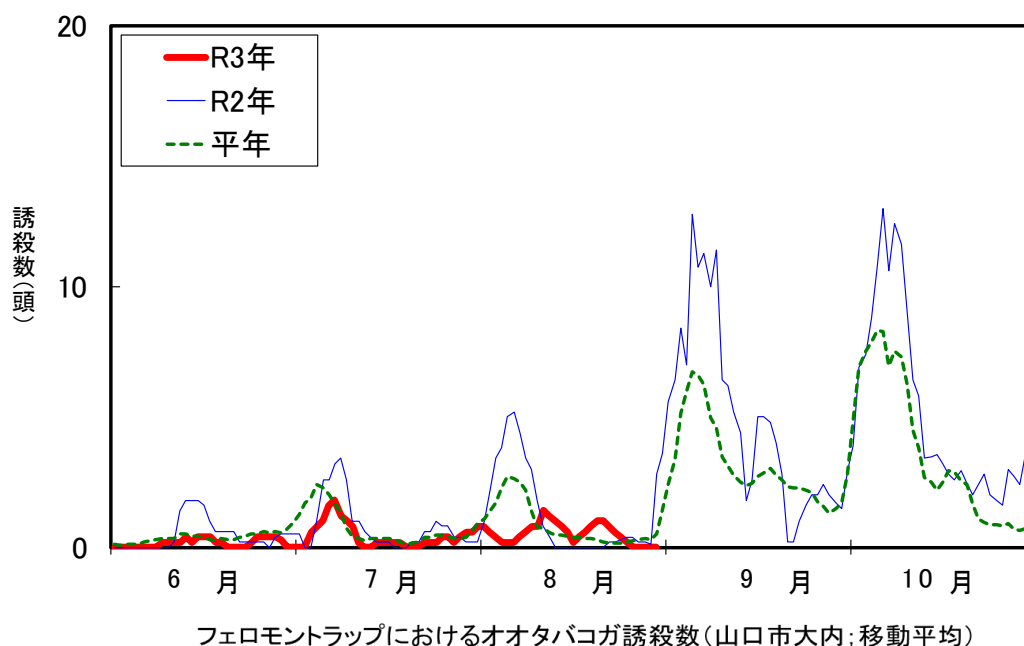
ア 齢が進むと内部に潜入し、作物の生長点付近を加害する性質を持っているので、薬剤がかかりにくくなる。そのため、発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。

イ 被害のあった新芽や蕾、果実等は早期に処分する。

ウ 施設では、開口部を寒冷紗や防風ネット等(4mm目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。

エ 黄色蛍光灯を終夜点灯すれば、ほ場への侵入や作物への産卵を抑制できる。

オ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



## 【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
イネ	ツマグロヨコバイ	やや少	やや少	前年並	16.3	21.8	出穂期以降に多発生することがある。
野菜全般	アブラムシ類	やや多	やや多	多	—	—	8月の山口市の黄色水盤による誘殺数は平年に比べやや多かった。
	シロイチモジヨトウ	平年並	平年並	多	—	—	8月の山口市のフェロモントラップによる誘殺数は平年並みであった。
	コガネムシ類	多	多	多	—	—	県内5か所の予察灯における誘殺数(4/1～8/25)は1,089頭(平年790頭)で平年に比べ多かった。

### Ⅲ 参考

#### 1 予報の見方

##### (1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

###### ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

###### イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

##### (2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	〃 より6日以上遅い
やや早い	〃 より3～5日早い
やや遅い	〃 より3～5日遅い
平年並	〃 を中心として前後2日以内

##### (3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

#### 2 気象予報

##### (1) 概要

###### 1か月気象予報（8月26日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少 ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	30	40	30
降 水 量	30	30	40
日 照 時 間	40	30	30

###### 週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	50	40	30
2 週 目	20	50	30
3～4 週 目	30	40	30